

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500953		
法人名	有限会社 青葉		
事業所名	グループホーム青葉		
所在地	長崎県北松浦郡佐々町本田原免152番地		
自己評価作成日	平成30年2月8日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年5月に開設し、今年16年目になります。「みんなで 楽しく にこにこ」を理念に掲げ、自然体で無理の無い生活、職員一人一人が利用者様個人に寄り添い、それぞれの声に耳を傾けて、出来る事の喜びの実現に向けたサービスに取り組んでいる。佐々町の中心にあり、地域の行事もホームの前で実施されており、刺激も多くいつでも参加や見学が出来る環境にあり、地域との繋がりを大事にしている。又、利用者様とご家族様との関係も大事に、いつでも身近に感じる事ができる様、近況報告や写真等で毎月ホーム便りを発行している。常に皆様、リビングで過ごされる事が多く、レクリエーションの参加にて声を出して笑ったり、自己主張のできる、無理のないゆったりとした当たり前の生活作りに取り組んでいる。隣に旅館を営んでいる事もあり、料理もバラエティーに富んだ食事を提供。皆様楽しみにしておられる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北松浦郡佐々町の中心部にある当ホームは、開設から16年目が経過し、地域住民のほか近隣公共機関や商店街等との交流を深め、地域との信頼関係が構築されており、今後一層の地域貢献への取り組みが期待できる事業所と言える。ホームでは入居者にとって無理のない、ゆったりとした生活を提供し、職員は当ホームが最後の棲家、ここに来て本当に良かったと入居者が心から思ってもらえるよう日々の支援に努められている。ホームでは入居者の生活歴を把握し、在宅時の馴染みの深い場所へ出かけたり、近隣の墓参りに職員が同行する等、入居者本人が望むことを叶えたいとの思いが窺え、入居者それぞれの個別支援を計画している。ホームでは化粧療法等、斬新な支援に取り組み、笑い声の絶えない姿が窺え、明るい雰囲気、入居者、職員間を問わず話しやすい風通しの良いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 さくら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し意識付けを行っている。その理念を職員全員が周知し共有して、毎日笑いがあり、過ごしやすい環境作りに努め、実践に繋げている。	平仮名で表現した理念は分かりやすく、職員も理念に込められた想いを理解している。日々の業務にとらわれることなく、自然体で支援を行い、社内研修でも意識を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや行事に出来るだけ参加している。中学生の「職場体験」や高校生の「いきいき地域交流事業」施設訪問等受け入れ、交流している。	ホームではボランティアの受入れや地域の祭りにも積極的に参加し、地域と交流している。地域内の福祉施設と社会福祉協議会合同の地域支援会議にも参加し、交流する中で地域に還元できることは何かを話し合い、実現可能な事は率先し取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一回の地域支援会議に参加し、情報交換や共有に努め、運営推進会議での理解と支援を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの実践や状況等を報告し、話し合いを行っている。そこでの意見を参考にして、サービス向上に活かしている。又、参加されていないご家族様も議事録を配布し情報の相互理解を図り、出席していない職員も議事録を通して周知徹底している。	運営推進会議には家族に案内状を出してどなたでも参加できるようにしている。現在ホームの透明性を実現する一つの方法としてヒヤリハット報告を議題として検討中である。会議の中ではメンバーとの意見交換も活発であることが窺える。	会議録は一連の流れに沿って詳細に記入されており、話合った内容が熟読すると理解できる。今後、テーマ毎に見出しを付けるなど工夫し、より分かりやすい議事録として残すことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム協議会、毎月の地域支援会議等を通して、各事業所との関係を築けている。	行政担当者と職員とは地域性もあり顔見知りの関係で、意見交換もスムーズに行われており、各種書類の提出に当たっても相談できる体制ができている。包括支援センターも含め空室情報などの情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。理解はしているが、危険性を考え状況によっては夜間のモニターでの見守り、玄関の施錠（見守りが行き届かない時間帯をする事もある。	内部研修で身体拘束や虐待の勉強会を実施し意識を高めている。退院直後の入居者で夜間の事故防止、見守り支援の為に居室にモニターを設置する場合は家族に事情を説明し同意を得て行っている。尚、同意書については設置期間を明確にしておくことが望ましい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の状態観察を日々行い、防止に努めている。特に入浴時の全身観察で注意を払い、何か異状があれば、状況や原因を明らかにし、話合っている。社内研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は代表者の専門でもあり、いつでも相談できる環境にあるが、学ぶ機会は少ない。自立支援については、研修等で学び、活用できる事は支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点等あればその都度説明し理解・同意を得ている。又、気軽に尋ねる事が出来る様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご家族様の参加が毎回あり、意見等よく聞かれ反映させている。又、面会時等のコミュニケーションに心掛け、要望等伝えやすい環境作りに努めている。運営推進会議に出席出来ないご家族様にも、議事録を送付し意見等伺うよう努めている。	管理者は家族面会時に気がけて意見を聴くようにしている。又、運営推進会議にほとんどの家族が参加され多くの意見を貰い、支援に活かすよう努めている。最近も家族の意見で居室にスチール棚を設置する等の事例が窺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやケア会議、全体会議等、日々の報告や相談、自由に意見や提案等々を聞く環境作りに努めている。又、個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	日頃から職員と管理者のコミュニケーションを図り、直近の事例では入居者がしたいことへの支援をする為の体制作りに向け話し合いを行い、募参り、知人への面会外出等実現に向け取り組まれている。職員会議に欠席した職員は管理者が口頭で内容を伝え、事務所内の議事録を確認し押印がなされ周知が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等の参加や緊急時の出勤、急な勤務交代等日々の努力や実績を判断し、給与と賞与に反映し、向上心がもてる様に職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し必要性を説明。出来るだけ多くの職員が参加できる様努めている。又、社内研修も二ヶ月に一度行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修や地域支援会議に参加。勉強会や発表、情報交換等の交流を通じて向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談にて直接ご本人の状態を確認し、不安やご要望等伺っている。又、ご家族様や関係機関からの情報収集行い、職員も情報の共有ご本人の安心した生活、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談でご本人やご家族様の状態を把握し、不安な事や困っている事等傾聴している。ご家族様の環境、性格等を考えながらペースに合わせ丁寧な対応に心掛け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームに申し込みに来られても必要に応じ、他のホームの申し込みも含め(待機状況)あらゆる方向性(広い視野)を考え、同じ目線でご本人やご家族様が安心できる様なサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	片付けや洗濯物たたみ等、一緒に出来る事はして頂きながら会話を大事にしている。常に相手の立場になり、無理の無い暮らし、共に支え合う関係が築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様やご本人の立場を尊重し対応している。「敬老会」や「母の日」等、一緒に過ごす機会を提供している。面会時や月に一度のホーム便り等で行事の内容や近況報告を行い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の重度化やご家族様の高齢化に伴い、支援が難しくなっているが、個々の誕生日にご本人がしたい事、行きたい所(馴染みの場所・人)等、ご家族様に協力を頂きながら支援に取り組む計画を話し合っている。	入居前からの趣味である習字、裁縫等を入居者と職員が一緒に行ったり電話の取次ぎなど積極的に支援されている。見慣れない面会者の来所時には家族から情報収集と承諾を得て対応がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの性格を考慮し、席の配置や職員の働きかけと情報の共有、レクリエーション等で皆が楽しく穏やかに過ごして頂ける様支援している。お手伝い等も分担し、協力し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院等、近所まで出掛けた際など出来るだけ訪問する様にしている。又、ご家族様とは、何処でお会いしても気持ちよく会話できており、相談があれば支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の声に耳を傾け内容を把握。これまでの習慣等を理解し、職員間で情報を共有。何かあれば話し合い、可能な限り希望に添える様努めている。	言葉にして伝える事が難しい入居者には声かけに工夫し、表情、態度を見て判断されている。毎月、夜勤明け以外の全職員が参加した入居者毎のケア会議では、問題点を話し合い、必要があればリハビリの方法を医師に尋ねる等、入居者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や収集した情報(生活歴)等で把握できている。又、ご本人との会話で得た情報等、職員間で情報交換し経過は記録し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り等にて、利用者様の心身状態や有する力等、現状を把握する様に努めている。又、日頃の心身状態の観察や表情、日々の変化に気付き、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の意見交換やケア会議(事前にご本人の課題等提出する)での現症状の検討。又、ご家族様の意向やご本人の聞き取りを行い、日々の気づきの共有、Drの意見等を反映させた現状に即した計画作成に努めている。	入居者が安心して生活ができるようにとの想いを第一にケアプランが立てられている。ケアプランと支援記録、バイタルチェック表が一覧表になっており、職員が記録に時間がかからないよう工夫し、入居者支援の時間が確保できるよう配慮されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日記録している。特別な出来事(気づき)がある時は、業務日誌(特記事項)やケース記録に記入。必要に応じては、雑記帳に記入し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズにあった支援ができるよう取り組んでいる。ご家族の状況に合わせ、施設長や管理者、職員の勤務調整を行い、可能な限り柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防団、ボランティアへの協力の依頼。年に二度の消火訓練、避難訓練の指導を受け、利用者様も一緒に避難訓練をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人やご家族様の希望に応じて。又、その時々々の症状に応じて、ご家族様に報告。かかりつけ医に相談し、専門医への受診を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームへの往診はなく、かかりつけ医受診は職員、状況により家族が同行している。受診時はバイタル、症状のメモ書きを持参しており、緊急時の受診では個人記録も持参している。受診結果はその都度家族へ連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が各ユニットにおり、薬の管理や健康管理面、病院受診の必要性等の相談や助言を受け、職員と協力し合い適切な受診や看護が支援できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に伺いホームでの生活が継続可能か、入院時の様子や状態観察、病院関係者との細かい情報交換を行い、お互い安心できる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や今後予測できる事等、主治医の意見を説明し、ご家族様と話し合い今後の対応準備を行っている。どこまで対応出来るか文章化し、終末期に向けた方針の共有に努めている。当ホームで出来る事できない事等理解して頂き、他施設についての情報提供を行い、安心して頂けるよう支援している。	ホームでの看取りは、医療行為等対応が難しい為行わない意向であり、入居契約時に家族に説明し同意を得ている。看取りの時期については医師の判断を仰ぐ事としている。職員の夜勤時等のストレスケアは管理者との連絡網や対応マニュアルの整備とその周知により軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等あれば、できる限り参加するように促している。定期的に行っていないが、社内研修等で取り入れている。どうすれば良いのか話す機会は設けている。マニュアルは作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、消火避難訓練を行い、地域の消防団との連携体制できている。近隣のタクシー会社や商店の方々とも協力体制をお願いしている。風水害や地震を想定した防災計画は作成している。防火自己点検表にて、毎日点検を行い、火災等を未然に防ぐための対策に努めている。	ホームでは毎年2回、夜間及び昼間想定で入居者と一緒に避難訓練を行なっている。ホーム近隣に河川があり氾濫を想定し、法人と関わりの深い近隣の高校生の応援を受け避難訓練を実施する等、地域から防災への協力を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を念頭におき、常に言葉づかいに心がけ、利用者様の状況、人格を尊重した対応、プライバシーを損ねない言葉かけを工夫し、対応に努めている。	入居者への呼びかけは苗字にさんづけであるが、入居者希望で親しみを込めた呼称を使用する場合は、家族に同意を得ると共に外部者にも配慮し取り組まれている。居室、トイレなどでのプライバシーへの配慮も適切な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら希望される事殆どなく、常に尋ねる様な言葉かけをし、日常の会話や行動の中で引き出し、自己主張できるよう働きかけ、思いを聞き取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりを守りつつ、利用者様の都合を優先している。利用者様の重度化もあり、お一人おひとりの希望に添える事は難しいが、少しでもそれぞれのペースを大切に支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や浴後、その方に応じて声かけや促しを行い支援している。又、イベント等ある時は、その方らしいお化粧やおしゃれが出来るよう支援している。散髪は、ホームに訪問をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや食事の後片付け等、出来る事はして頂き、無理強いせず一緒に楽しみを持ちながら自立支援、ADL・QOL低下防止に努め、感謝の言葉も心がけている。食べたい物があればなるべく応じ、個人に合わせた食事作りに努め、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	献立は、色合いや栄養バランス、食材が重ならない等配慮し、各ユニットの職員が半月ごとに交替で作成している。行事食も季節毎、入居者の誕生日等の機会を利用して提供している。希望があれば都度メニューを変更でき、必要時は隣接の同一法人の旅館厨房からのアドバイスも得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録、食事形態等、個人に合わせた食事を提供し、場合によっては声かけや介助を行っている。カロリー計算は行っていないが、糖分や塩分を控えめにしている。Drより塩分控えめの指示があれば、その方に応じた支援をしている。健康状態によっては、水分量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に嚥下体操を取り入れ、毎食後は利用者様の状態に応じて口腔ケアをしている。又、月に一度口腔内チェックを設け、歯(義歯)の状態や歯茎の状態等チェックし、必要に応じて歯科受診(往診)をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた支援をしている。夜間オムツ対応の方でも日中は綿パンツにし、訴えがない方でも排泄チェック表にてパターンをつかみ失敗がない様、声かけしている。立位困難な方でも二人対応にて、トイレでの排泄を心がけている。	排泄チェックシートにて入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、入居者毎の能力に合わせた支援が行われている。失禁時はプライバシーを尊重したさりげない声掛けが実践されている。又、適切なおむつ、パット使用に向けた検討も行われ、家族へのアドバイスも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給と状態に合わせ野菜ジュースや豆乳を提供している。十時のお茶時の牛乳や豆乳、食事時のヨーグルト、毎日の体操等を行い、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日は決まっているが、時間の希望があればタイミングに合わせて応じている。週3回、その日の体調等考慮し、限られた時間の中でゆっくりと楽しんで頂けるよう努めている。又、皮膚の状態や身体の異状等ないか観察している。	入居者が入浴拒否の場合、互いのユニット間で入浴可能であり、移動と共に気持ちの変化が考えられる為ユニット内で毎日入浴可能な体制をとっている。歌を唄ったり、職員と昔話をしたりと穏やかなひと時を過ごせる場となっている。皮膚疾患患者対応では個別にマットを交換している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状況や希望に応じている。日中は殆どの方がリビングで過ごされる方が多いが、昼食後より休む時間を取り入れ、声かけにて希望を伺い個々に合わせた休息を取り入れ、安心してゆっくりとした時間を提供。就寝時も寝具の調節、居室の温度調節をし、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や臨時薬がある時は、変化に合わせて記録や情報交換、周知徹底を行い把握できている。服薬は職員で二重チェックし、内服時は必ずご本人に名前を尋ね、ご本人より名前を声に出して頂き確認している。薬の説明書(副作用)等、いつでも確認できる様にファイルに綴じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化もあり、なかなか難しくなっているが、個々に合わせた出来る事(お手伝い・得意な事を活かしたレクリエーション)をして頂き、役割や出来た時の喜びを一緒に味わい、張り合いや喜びのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、個々の希望にそって、散歩やドライブ、お買い物等出掛けるよう努めている。又、地域のイベントやお花見、ご家族様と一緒に外食(おやつ)等、楽しんで出掛けられるよう支援している。個々のお誕生日に、ご家族様の協力を得、普段行けない様な場所(行きたい所)に行けるよう努めている(計画中)	受診の帰りの買物や、入居者個別支援の一環で買物日を設け、近隣のスーパー等に出かけている。好天時は近隣で季節毎の空気に触れる機会も設けている。又、希望により近隣の葉参りに職員が同行する等個別の外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持は難しくご家族様の同意の上、ホームで管理している。ご本人の欲しい物等あれば、ご家族様に報告しお買い物ディで支援している。重度化もあり希望する物等、困難な事が多くお金を使う事の支援は困難になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。手紙のやり取りや電話での会話も難しくなっているが、ホームのお便りでの近況報告により、遠く離れたご家族様からの手紙や電話、贈り物等届いている。敬老の日や母の日は、事前にご家族様へメッセージカードをお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花や植木等で季節感を出し、リビングには、四季感のある折紙や飾り付け等、楽しんで頂きながら話題を提供。適切な温度と湿度、生活感や四季折々を感じ、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	ホームでは勤務体制に合わせて清掃担当を決めており、掃除機かけや拭き掃除により清潔に保たれている。入居者は思いおmoiの場所に座って職員、入居者共に垣根なく談笑されている。ソファ、テーブルの配置は動線にも配慮し、照度、臭気にも気配りがなされ、過ごし易い空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外一人になれる場所はないが、談笑やTV視聴等、思い思い過ごしておられる。お互い気の合う方の傍にいたり、トラブルにならない様、座られる場所を配慮し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様とご家族様が相談され、好みのタンスや置物、馴染みの物等置かれている。又、ご家族様と一緒に写真や思い出の写真・お手紙等飾ったりとご本人が安心した居心地よく過ごせるよう、ご家族様を身近に感じて頂けるよう工夫している。	清掃、室温、湿度管理が適切で2か月に1回エアコンのフィルターも清掃し、快適な居室となるよう配慮されている。入居者の馴染みの家具、思い出の品が持込まれており、在宅時と違和感を感じさせない居室となるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下の手摺り、ベッド手摺り等調節し、不安や危険をなるべく排除し、自立した生活が安全にできるよう、残存能力を活かした現状維持が保てるよう支援している。各居室にプレートを掲げ、分かりやすい様、目印等を貼り付け、個々の力を活かした生活が送れるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 こすもす

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し意識付けを行っている。その理念を職員全員が周知し共有して、毎日笑いがあり、過ごしやすい環境作りに努め、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや行事に出来るだけ参加している。中学生の「職場体験」や高校生の「いきいき地域交流事業」施設訪問等受け入れ、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一回の地域支援会議に参加し、情報交換や共有に努め、運営推進会議での理解と支援を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの実践や状況等を報告し、話し合いを行っている。そこでの意見を参考にして、サービス向上に活かしている。又、参加されていないご家族様も議事録を配布し情報の相互理解を図り、出席していない職員も議事録を通して周知徹底している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム協議会、毎月の地域支援会議等を通して、各事業所との関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。 理解はしているが、危険性を考え状況によっては夜間のモニターでの見守り、玄関の施錠(見守りが行き届かない時間帯)をする事もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の状態観察を日々行い、防止に努めている。特に入浴時の全身観察で注意を払い、何か異状があれば、状況や原因を明らかにし、話合っている。社内研修も行っている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は代表者の専門でもあり、いつでも相談できる環境にあるが、学ぶ機会は少ない。自立支援については、研修等で学び、活用できる事は支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点等あればその都度説明し理解・同意を得ている。又、気軽に尋ねる事が出来る様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご家族様の参加が毎回あり、意見等よく聞かれ反映させている。又、面会時等のコミュニケーションに心掛け、要望等伝えやすい環境作りに努めている。運営推進会議に出席出来ないご家族様にも、議事録を送付し意見等伺うよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやケア会議、全体会議等、日々の報告や相談、自由に意見や提案等々を聞く環境作りに努めている。又、個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等の参加や緊急時の出勤、急な勤務交代等日々の努力や実績を判断し、給与と賞与に反映し、向上心がもてる様に職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し必要性を説明。出来るだけ多くの職員が参加できる様努めている。又、社内研修も二ヶ月に一度行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修や地域支援会議に参加。勉強会や発表、情報交換等の交流を通じて向上に努めている。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談にて直接ご本人の状態を確認し、不安やご要望等伺っている。又、ご家族様や関係機関からの情報収集を行い、職員も情報の共有ご本人の安心した生活、関係づくりに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談でご本人やご家族様の状態を把握し、不安な事や困っている事等傾聴している。ご家族様の環境、性格等を考えながらペースに合わせ丁寧な対応に心掛け、関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームに申し込みに来られても必要に応じ、他のホームの申し込みも含め(待機状況)あらゆる方向性(広い視野)を考え、同じ目線でご本人やご家族様が安心できる様なサービス対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	片付けや洗濯物たたみ等、一緒に出来る事はして頂きながら会話を大事にしている。常に相手の立場になり、無理の無い暮らし、共に支え合う関係が築ける様に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様やご本人の立場を尊重し対応している。「敬老会」や「母の日」等、一緒に過ごす機会を提供している。面会時や月に一度のホーム便り等で行事の内容や近況報告を行い関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の重度化やご家族様の高齢化に伴い、支援が難しくなっているが、個々の誕生日にご本人がしたい事、行きたい所(馴染みの場所・人)等、ご家族様に協力を頂きながら支援に取り組む計画を話し合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの性格を考慮し、席の配置や職員の働きかけと情報の共有、レクリエーション等で皆が楽しく穏やかに過ごして頂ける様支援している。お手伝い等も分担し、協力し合っている。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院等、近所まで出掛けた際など出来るだけ訪問する様にしている。又、ご家族様とは、何処でお会いしても気持ちよく会話できており、相談があれば支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の声に耳を傾け内容を把握。これまでの習慣等を理解し、職員間で情報を共有。何かあれば話し合い、可能な限り希望に添える様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や収集した情報(生活歴)等で把握できている。又、ご本人との会話で得た情報等、職員間で情報交換し経過は記録し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り等にて、利用者様の心身状態や有する力等、現状を把握する様に努めている。又、日頃の心身状態の観察や表情、日々の変化に気付き、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の意見交換やケア会議(事前にご本人の課題等提出する)での現症状の検討。又、ご家族様の意向やご本人の聞き取りを行い、日々の気づきの共有、Drの意見等を反映させた現状に即した計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日記録している。特別な出来事(気づき)がある時は、業務日誌(特記事項)やケース記録に記入。必要に応じては、雑記帳に記入し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズにあった支援ができるよう取り組んでいる。ご家族の状況に合わせ、施設長や管理者、職員の勤務調整を行い、可能な限り柔軟な対応に努めている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防団、ボランティアへの協力の依頼。年に二度の消火訓練、避難訓練の指導を受け、利用者様も一緒に避難訓練をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人やご家族様の希望に応じて。又、その時々症状に応じて、ご家族様に報告。かかりつけ医に相談し、専門医への受診を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が各ユニットにおり、薬の管理や健康管理面、病院受診の必要性等の相談や助言を受け、職員と協力し合い適切な受診や看護が支援できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に伺いホームでの生活が継続可能か、入院時の様子や状態観察、病院関係者との細かい情報交換を行い、お互い安心できる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や今後予測できる事等、主治医の意見を説明し、ご家族様と話し合い今後の対応準備を行っている。どこまで対応出来るか文章化し、終末期に向けた方針の共有に努めている。当ホームで出来る事できない事等理解して頂き、他施設についての情報提供を行い、安心して頂けるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等あれば、できる限り参加するように促している。定期的に行っていないが、社内研修等取り入れている。どうすれば良いのか話す機会は設けている。マニュアルは作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、消火避難訓練を行い、地域の消防団との連携体制できている。近隣のタクシー会社や商店の方々とも協力体制をお願いしている。風水害や地震を想定した防災計画は作成している。防火自己点検表にて、毎日点検を行い、火災等を未然に防ぐための対策に努めている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を念頭におき、常に言葉づかいに心がけ、利用者様の状況、人格を尊重した対応、プライバシーを損ねない言葉かけを工夫し、対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら希望される事殆どなく、常に尋ねる様な言葉かけをし、日常の会話や行動の中で引き出し、自己主張できるよう働きかけ、思いを聞き取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりを守りつつ、利用者様の都合を優先している。利用者様の重度化もあり、お一人おひとりの希望に添える事は難しいが、少しでもそれぞれのペースを大切に支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や浴後、その方に応じて声かけや促しを行い支援している。又、イベント等ある時は、その方らしいお化粧やおしゃれが出来るよう支援している。散髪は、ホームに訪問をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや食事の後片付け等、出来る事はして頂き、無理強いせず一緒に楽しみを持ちながら自立支援、ADL・QOL低下防止に努め、感謝の言葉も心がけている。食べたい物があればなるべく応じ、個人に合わせた食事作りに努め、職員も一緒に食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録、食事形態等、個人に合わせた食事を提供し、場合によっては声かけや介助を行っている。カロリー計算は行っていないが、糖分や塩分を控えめにしている。Drより塩分控えめの指示があれば、その方に応じた支援をしている。健康状態によっては、水分量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に嚥下体操を取り入れ、毎食後は利用者様の状態に応じて口腔ケアをしている。又、月に一度口腔内チェックを設け、歯(義歯)の状態や歯茎の状態等チェックし、必要に応じて歯科受診(往診)をお願いしている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じた支援をしている。夜間オムツ対応の方でも日中は綿パンツにし、訴えない方でも排泄チェック表にてパターンをつかみ失敗がない様、声かけている。立位困難な方でも二人対応にて、トイレでの排泄を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給と状態に合わせ野菜ジュースや豆乳を提供している。十時のお茶時の牛乳や豆乳、食事時のヨーグルト、毎日の体操等行い、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は決まっているが、時間の希望があればタイミングに合わせて応じている。週3回、その日の体調等考慮し、限られた時間の中でゆっくりと楽しんで頂けるよう努めている。又、皮膚の状態や身体の変状等ないか観察している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状況や希望に応じている。日中は殆どの方がリビングで過ごされる方が多いが、昼食後より休む時間を取り入れ、声かけにて希望を伺い個々に合わせた休息を取り入れ、安心してゆっくりとした時間を提供。就寝時も寝具の調節、居室の温度調節をし、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や臨時薬がある時は、変化に合わせて記録や情報交換、周知徹底を行い把握できている。服薬は職員で二重チェックし、内服時は必ずご本人に名前を尋ね、ご本人より名前を声に出して頂き確認している。薬の説明書(副作用)等、いつでも確認できる様にファイルに綴じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化もあり、なかなか難しくなっているが、個々に合わせた出来る事(お手伝い・得意な事を活かしたレクリエーション)をして頂き、役割や出来た時の喜びを一緒に味わい、張り合いや楽しみのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、個々の希望にそって、散歩やドライブ、お買い物等出掛けるよう努めている。又、地域のイベントやお花見、ご家族様と一緒に外食(おやつ)等、楽しんで出掛けられるよう支援している。個々のお誕生日に、ご家族様の協力を得、普段行けない様な場所(行きたい所)に行けるよう努めている(計画中)		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持は難しくご家族様の同意の上、ホームで管理している。ご本人の欲しい物等あれば、ご家族様に報告しお買い物ディで支援している。重度化もあり希望する物等、困難な事が多くお金を使う事の支援は困難になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。手紙のやり取りや電話での会話も難しくなっているが、ホームのお便りでの近況報告により、遠く離れたご家族様からの手紙や電話、贈り物等届いている。敬老の日や母の日は、事前にご家族様へメッセージカードをお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花や植木等で季節感を出し、リビングには、四季感のある折紙や飾り付け等、楽しんで頂きながら話題を提供。適切な温度と湿度、生活感や四季折々を感じ、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外一人になれる場所はないが、談笑やTV視聴等、思い思い過ごしておられる。お互い気の合う方の傍にいたり、トラブルにならない様、座られる場所を配慮し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様とご家族様が相談され、好みのタンスや置物、馴染みの物等置かれている。又、ご家族様と一緒にの写真や思い出の写真・お手紙等飾ったりとご本人が安心した居心地よく過ごせるよう、ご家族様を身近に感じて頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下の手摺り、ベッド手摺り等調節し、不安や危険をなるべく排除し、自立した生活が安全にできるよう、残存能力を活かした現状維持が保てるよう支援している。各居室にプレートを掲げ、分かりやすい様、目印等を貼り付け、個々の力を活かした生活が送れるよう工夫している。		